岐阜県博物館調査研究報告　第7号　1986年3月

笠ケ岳連峰の自然史科学的総合研究

中　野　敬　一

Natural history researches of the **Kasagatake** Mountains, Gifu Pref., Central Japan.

Keiichi NAKANO

岐阜県博物館では，昭和57年度以来，岐阜県下の自然史の実態と特性を明らかにすることを目的として，「飛騨川上流域の自然調査」を3ケ年実施してきた。その成果の一部は，岐阜県博物館調査研究報告書第3号（1982）～第6号（1985）に発表されている。本研究は，それに引続いて昭和60年度を初年度とし，笠ケ岳連峰一帯に焦点をあて3年間継続が予定されている。初年度は，動物・植物・地学の三分野とも，小池新道・笠新道・クリヤ谷登山道を中心とした笠ケ岳連峰東側斜面を調査対象とした。調査中に収集した標本は，重複標本などの一部を除き，すべて岐阜県博物館に保存されている。本号には，昭和60年度調査の成果のうち，植物・動物分野からその一部を公表する。

本総合研究の実施にあたって，環境庁中部山岳国立公園平湯管理事務所・神岡営林署・上宝村などの関係機関，および地元山小屋経営者・従業員の皆さん，及び県内外の研究者の方々など，多くの人々の御協力をいただいている。ここに厚く御礼申し上げる。

引続き，◎植物相，植生帯の調査と植物標本；植物生態写真等の資料収集，◎動物相，動物分布・生態の調査と動物標本；動物生態写真等の資料収集，◎地形，地質，地史の調査と岩石・鉱物標本，自然景観写真等の資料収集がなされる予定である。

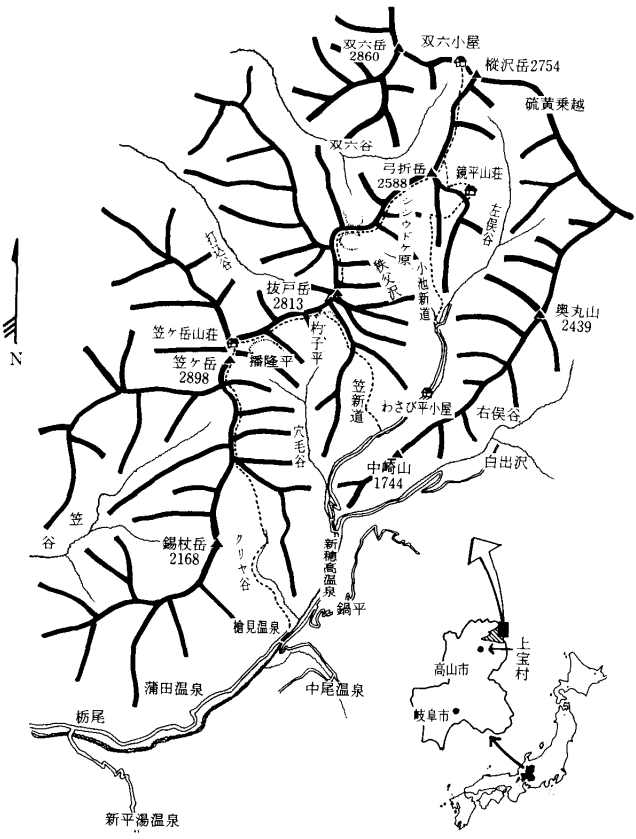

図1　調査地概念図

調査地の概要

本調査地は，中部山岳国立公園，いわゆる北アルプスの一部をなす山岳地域である。岐阜・長野県境にそびえる槍・穂高連峰とは，蒲田川をはさんで西側に位置し，南の錫杖岳（2,168）から，笠ケ岳（2,898）抜戸岳（2,813）弓折岳（2,588）樅沢岳（2,754）へと続く山岳群である。この笠ケ岳連峰一帯は，ふもとから山頂までが，吉城郡上宝村内にあり，岐阜県の自然の象徴的存在である。山自体の構成も，陥没構造を伴った白亜紀火山岩層からできている特異な高山地帯であり，山麓にブナの原生林が残され，東斜面にダケカンバ林がよく発達しているなど，御岳山・乗鞍岳等とも異質の植生がみられる。しかし，これまで自然史科学的な調査は，十分なされておらず未知な地域であり，未解決な課題が多く秘められている。